

エッセイ

私と図書館情報学—もっと早く図書館情報学に出会いたかった—

四方 未来

(京田辺市教育委員会 学校司書)

1 自己紹介

皆様、はじめまして。この度、I-LISS Japan 様へ入会の機会を頂きました、四方未来(しかたみく)と申します。現在、京田辺市立小中学校図書館で学校司書をしています。

大学では数学を専攻し、博士課程まで進みました。ただ図書館や読書については、中高生の時に放課後に図書室へ通り物語を読む程度で、当時は司書の仕事や図書館の役割に興味を持ってはいませんでした。

しかし、院生時代に数学講師としてお世話になりました高等学校の学校司書と出会い、本と子どもたちを繋ぐ仕事に魅力を感じ、図書館司書、特に学校司書を目指すため、大学院を退学し桃山学院大学の司書講習で司書資格を取得しました。司書講習では、志の高い仲間や熱心な先生方と出会い、司書講習後も先生方との勉強の機会を持ちながら、司書として就職するためお互いを励ましあったことを今でも覚えています。司書講習時代の仲間のおかげで、大学図書館や大阪市立図書館で経験を積む機会を得て、医療系専門学校で正規の司書職に就職することが出来ました。

けれど、小さな図書室でどのような図書があるか把握は出来ませんが、医療の専門性のない自分が必要としている学生や教職員に本を届けられているのか、悩むようになりました。医療の専門性を身に着けることも考えましたが、元々目指していた子どもたちと本を繋ぐ学校司書への夢が捨てきれず、専門学校の司書職を退職することにしました。学校司書の募集は、その当時なかなか見つからず、一度中学校の数学の講師に戻りました。このまま、充て職でも司書教諭になれる可能性のある数学教員を目指す道もありましたが、ご縁があり京田辺市立学校で念願の学校司書になることが出来ました。

正規ではない学校司書でしたので、はじめは数学教員にいつか戻るかとも思いながら過ごしました。しかし、同市のレベルの高い学校司書の先輩方からたくさんの事を学び、読書推進や授業支援、学校図書館のイベントなどを通して、子どもたちと本を繋ぐ仕事を改めて素敵な仕事だと感じました。そして学校司書として子どもたちのために学校図書館をより良い方向へ発展させたいと思い、SLAの近畿大会や地域の学校読書推進会議等にも参加するようになりました。

2 学校図書館の発展のために私がしようと思っていること

京田辺市で学校司書として勤めてから数年、2023年度の夏の京都教育大学の司書教諭講習で大きな転換点を迎えました。司書教諭講習の今野創祐先生の講義で、図書館情報学という学問があるこ

と、また図書館を研究されている方がいらっしゃることを知ったことです。関東では図書館情報学の大学院があること、関西でもいろいろな団体による図書館に関する研究会が行われていることなどを教えて頂きました。そして、学校図書館で勤めている中で出てきた疑問や問題点を解消するため図書館情報学について学び、現在勤めている学校図書館をよりよいものにしていくため、ルールを改善する研究をしたいと思うようになりました。

研究したい項目として、

- クラス数と蔵書数の目安について
- 市町村ごとの蔵書数増加を目指した廃棄図書制限と図書の買い替えについて (廃棄の必要性と買い替えの推進)
- 学校司書 (司書教諭・保護者ボランティア) の来室日と来室日以外での児童・生徒の来室数と貸出数の変化について (学校司書が一枚に一人配置が望ましいのか)
- 小中学校での理想的な類別の蔵書構成について
- 児童のネットと本での情報収集の違いについて
- 小学校での読み聞かせ (週に行う回数と行う学年) とその後の学年での読書量について

以上のように、図書館情報学や学校図書館について様々なことを研究し、これからの学校図書館の発展に少しでも貢献したいと考えています。

現在は勉強不足な部分があり図書館情報学を少しでも知るため、様々な研究会に参加させて頂き、本や論文を読んで、どのテーマで研究を進めたいか考えています。

また、学校現場でも人と本を繋ぐ司書の仕事を広めたいと考えています。学校に来られる外国出身の ALT (外国語指導助手) の教員は「スクール・ライブラリアン (学校司書)」と伝え、授業支援や資料収集などをイメージされることが多いです。小学校の教員も最近はその傾向にあります。しかし、日本の公立学校、特に中学校などでは蔵書管理・書架整理のためだけにいる人と思っている教員が少なくありません。学校司書の役割がとても軽く扱われ、重要視されていないことがとても悲しいです。

学校図書館は、読書推進や授業支援の大きな役割を担い、また児童生徒が安心できる場としても注目されています。私は学校図書館について研究していくことで、これらの役割や学校司書がいることの重要性を伝えていきたいです。そして、必要としている人に本や情報がいつでも提供できる学校図書館が増えて欲しいと思います。

3 先生方へのお願い: 学び始めた者からの提言

3.1 図書館を目指す人に図書館情報学という学問が存在することを伝えて下さい

私が図書館情報学という学問を知ったのは、幸運にも司書教諭講習で今野創祐先生の講義を受講出来た事がきっかけでした。司書講習の中では、司書としての働くスキルや知識をたくさん学ぶことが出来ましたが、図書館情報学があることに気づきませんでした。先輩の司書から、同志社大学大学

院で図書館情報学コースが出来たことを教えて頂いた時など、気づくきっかけはあったかもしれませんが。

司書を目指す方やすでに司書になられた方の中にも、図書館情報学を知ることで学びたいと思われる方はいらっしゃると思います。司書講習や大学の司書課程、司書向けの研修会などで、ぜひ今学んでいることは図書館情報学というものに基づいていること、大学院で学び続けられることを伝えて頂くことで、知る機会を作ってほしいです。

3.2 図書館情報学大学院を関西に復活，維持して下さい

桃山学院大学で「学校司書養成講座」や「学び直し講座」など、関西でも勉強する場が増えたことを知りました。しかし、関西で博士後期課程で(大学)院生を受け入れている大学院や司書課程・司書教諭課程より難しいことを学べる講座など、図書館情報学を学び研究する場がないように感じます。以前は図書館情報学の大学院があったとお聞きしましたが、現在はなくなってしまい残念です。

司書講習後の数年間は、司書講習仲間とお互いの自己研鑽のため集まり、自分の所属する図書館の情報や司書講習では深く学ぶ時間のなかったアニメーションなどの実践スキルを磨きました。しかし、それは得た知識を共有する程度で、本格的な学びの場にはなりません。日々変化していく図書館で働く中で、司書としてスキルや知識を身に付け、またより良くなるよう研究したいと思われる人もたくさんいると思います。対面やオンラインなど、学ぶ場を作ってください先生がいてくださいましたら嬉しいです。